

2023 年度 授業計画(シラバス)

学 科	理学療法士学科		科目区分	専門基礎分野	授業の方法	演習
科目名	体表解剖学 I		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対象学年	1年生		学期及び曜時限	前期	教室名	機能訓練室
担当教員	可成 孝多	実務経験と その関連資格	理学療法士として臨床現場にて多岐にわたる疾患や障害に対して、触診技術を基に理学療法を実施していた			
《授業科目における学習内容》						
理学療法士は、患者を直接接触して評価し治療を行う能力が必要である。解剖学や運動学で学んだヒトの立体的(三次元的)構造の位置や動きを知り、触察できなければ、評価や治療はできない。そこで皮膚を通して内部組織を視察・触察する技術を身につけることを目的とする。						
《成績評価の方法と基準》						
小テスト(全5回)50% 科目修得試験50% その他授業への参加態度や学習へ向かう姿勢なども場合によって査定対象とする						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
増補改訂第2版 運動療法のための 機能解剖学的触診技術 上肢 動画プラス 増補改訂第2版 運動療法のための 機能解剖学的触診技術 下肢・体幹 動画プラス						
《授業外における学習方法》						
テキストを参考に、自分の身体を用いて可能な範囲で触診の復習をする。または、学生同士で触診を行うことが望ましい。						
《履修に当たっての留意点》						
理学療法を実施する上で、非常に重要な分野です。日ごろより自分の体を使って勉強してください。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を 通じての 到達目標	① 体表解剖学の基礎的知識および技術を身に付けている	指定テキスト	事前学習(20分) シラバスを読む 事後学習(40分) 触診の基本について復習	
		各コマに おける 授業予定	オリエンテーション、運動の方向、触診方法について			
第2回	講義形式	授業を 通じての 到達目標	① 体表解剖学の基礎的知識および技術を身に付けている	指定テキスト	事前学習(30分) 基礎解剖の予習 事後学習(30分) 基礎解剖学の復習	
		各コマに おける 授業予定	全身の骨を知る			
第3回	実習形式	授業を 通じての 到達目標	② 触診可能な骨指標に正しく触れることができる	指定テキスト	事前学習(30分) 解剖の予習(肩甲骨) 事後学習(30分) 実技の復習	
		各コマに おける 授業予定	(上肢骨)肩甲骨について触診できる			
第4回	実習形式	授業を 通じての 到達目標	② 触診可能な骨指標に正しく触れることができる	指定テキスト	事前学習(30分) 解剖の予習(鎖骨) 事後学習(30分) 実技の復習	
		各コマに おける 授業予定	肩甲骨について触診できる、鎖骨について触診できる			
第5回	実習形式	授業を 通じての 到達目標	② 触診可能な骨指標に正しく触れることができる	指定テキスト	事前学習(30分) 解剖の予習(上腕骨) 事後学習(30分) 実技の復習	
		各コマに おける 授業予定	上腕骨について触診できる			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	演習形式	授業を通じての到達目標	② 触診可能な骨指標に正しく触れることができる	指定テキスト	事前学習(30分) 解剖の予習(前腕骨) 事後学習(30分) 実技の復習
		各コマにおける授業予定	前腕骨(橈骨・尺骨)について触診できる		
第7回	演習形式	授業を通じての到達目標	② 触診可能な骨指標に正しく触れることができる	指定テキスト	事前学習(30分) 解剖の予習(手根骨) 事後学習(30分) 実技の復習
		各コマにおける授業予定	手根骨及び手指骨について触診できる		
第8回	演習形式	授業を通じての到達目標	② 触診可能な骨指標に正しく触れることができる	指定テキスト	事前学習(30分) 解剖の予習(脊柱) 事後学習(30分) 実技の復習
		各コマにおける授業予定	脊柱について触診できる		
第9回	演習形式	授業を通じての到達目標	② 触診可能な骨指標に正しく触れることができる	指定テキスト	事前学習(30分) 解剖の予習(脊柱) 事後学習(30分) 実技の復習
		各コマにおける授業予定	脊柱について触診できる		
第10回	演習形式	授業を通じての到達目標	② 触診可能な骨指標に正しく触れることができる	指定テキスト	事前学習(30分) 解剖の予習(脊柱) 事後学習(30分) 実技の復習
		各コマにおける授業予定	脊柱について触診できる		
第11回	演習形式	授業を通じての到達目標	② 触診可能な骨指標に正しく触れることができる	指定テキスト	事前学習(30分) 解剖の予習(骨盤) 事後学習(30分) 実技の復習
		各コマにおける授業予定	骨盤について触診できる		
第12回	演習形式	授業を通じての到達目標	② 触診可能な骨指標に正しく触れることができる	指定テキスト	事前学習(30分) 解剖の予習(大腿骨) 事後学習(30分) 実技の復習
		各コマにおける授業予定	大腿骨について触診できる		
第13回	演習形式	授業を通じての到達目標	② 触診可能な骨指標に正しく触れることができる	指定テキスト	事前学習(30分) 解剖の予習(下腿骨) 事後学習(30分) 実技の復習
		各コマにおける授業予定	下腿骨(脛骨、腓骨)について触診できる		
第14回	演習形式	授業を通じての到達目標	② 触診可能な骨指標に正しく触れることができる	指定テキスト	事前学習(30分) 解剖の予習(足根骨) 事後学習(30分) 実技の復習
		各コマにおける授業予定	足根骨及び趾骨について触診できる		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	①.②について振り返り、理解と説明ができる	指定テキスト	事前学習(30分) 全コマの予習 事後学習(30分) 全コマの復習
		各コマにおける授業予定	まとめ 振り返り		